

平成29年度

全国学力・学習状況調査の  
結果について



平成29年12月

海老名市立今泉中学校

## 目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



## 資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。  
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

### 【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

### 【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

### 【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

### 【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

### 【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人には、授業参観や運動会などの学校行事に来る

### 【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

# 全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

## ◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

## ◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

### 【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

### 【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

## ◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は  
こちらから



# 国語に関する調査結果

## 国語 A

(主として「知識」に関する問題)

### 《優れている所》

- どの領域もおおむねバランスよく知識を習得している。
- 「話すこと・聞くこと」の領域において、「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」問いの正答率が高い。
- 「書くこと」の領域において、「書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す」問いの正答率が高い。

### 《努力を要する所》

- 「漢字を正しく読む」問いに比べ、「書く」問いでは正答率の低さと無解答率が目立つ。
- 全国平均と同様に「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」問いの正答率が低い。

## 国語 B

(主として「活用」に関する問題)

### 《優れている所》

- 「提示された資料から必要な情報を集めるための見通しをもって自分の考えを書く」問いの正答率が高い。
- 「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す」問いの正答率が高い。

### 《努力を要する所》

- 「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問いでは、全国平均と同様に正答率が低く、無解答率もほかの問いと比べ高い。
- 「自分の考えを記述する」問いでは、正答率が低く、無解答率も高い。



## これまでの取組から

- 授業の最初に漢字のワークを5分間取り組み、定期的に小テストを実施し、継続的に語彙習得に努めた。また、文章読解に先立ち、意味調べを行い、読解をより正確なものにした。
- アクティブラーニングの視点から、話し合い活動をはじめ、スピーチ、ディベート等を行った。
- 図書支援員と連携し、図書館を活用した授業を取り入れた。

## 今後の具体的な取組について

- 漢字の書きに関して知識の習得が不十分であるため、ワークを使った反復学習を継続していく。
- 文章の読解はおおむねできるが、限られた時間で、考えをまとめ文章化することに課題があるので、時間設定をした上での課題作文を積極的に取り入れる。

# 数学に関する調査結果

## 数 学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○数式では、計算などの数学的スキルが身につけており、正の数と負の数の意味を理解し、加法・減法についての計算問題がよくできている。また、文字式の計算についても正確に問題を解くことができている。

○図形では、位置関係や作図や、移動の根拠となる事柄についてよく理解している。「学習指導要領の領域」、「評価の観点」「問題形式」のいずれの項目についても、問題の正答率が高い。

○確率では、同様に確からしいという意味を理解し、簡単な確率を求めることができている。

《努力を要する所》

○比例や反比例などの関数についての理解の定着に課題が見られる。

○一次関数の傾きと切片についての問題の正答率が低い。

## 数 学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○数式では、数と式についての数学的な見方や考え方は比較的できている。

○与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することに関しても比較的できている。

○図形では、事象を図形間の関係に着目して、対称性を的確にとらえることができている。

○三角形の合同を用いて、対応する角の大きさが等しいことを証明する問題についても比較的できている。

《努力を要する所》

○資料の活用の単元で、度数分布表などから必要な情報を取り出す問題や解決する問題に課題が見られる。



### これまでの取組から

○基本的な計算問題を中心に取り組んできたので、正負の数や文字式の計算はある程度できるようになっている。

○数学的な応用力を伸ばす観点での授業が少なかったと思われるので、改善していきたい。

### 今後の具体的な取組について

○基礎・基本的な事項をしっかり押さえて、必要に応じて個別指導等の支援を行っていく。

○既習の学習内容の中で、理解が十分でない単元などを振り返る時間を設定し、定着を高めていきたい。

# 生徒質問紙の結果より

## 学習について

### 《よかった所》

- 「学校の授業以外で、月～金曜日に1日あたり1時間以上勉強している」と答えた生徒が全体の8割以上を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた生徒が全体の6割弱を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている」と答えた生徒が全体の8割以上を示し、県・全国平均を大きく上回っている。
- 「学校で好きな授業がある」と答えた生徒が全体の9割弱を示し、県・全国平均を大きく上回っている。

### 《課題と思われる所》

- 「1日当たり、通話、メール、インターネットを1時間以上している」と答えた生徒が全体の5割強であり、全国平均を大きく上回っている。
- 「学校や地域の図書館を利用する」と答えた生徒が県・全国平均を下回り、全く利用しない生徒が6割弱を示している。

## 生活について

### 《よかった所》

- 「学校に行くのが楽しい」「学校で友達に会うのは楽しい」「友達の話や意見を最後まできくことができる」「友達の考えを受け止めて、自分の意見を持つことができる」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と答えた生徒が全体の9割を示し、県・全国平均を上回っている。
- 「自分には、よいところがある」と答えた生徒が全体の8割を示し、県・全国平均を大きく上回っている。
- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた生徒が全体の8割以上を示し、県・全国平均を大きく上回っている。

### 《課題と思われる所》

- 「地域の行事に参加している」と答えた生徒が全体の3割であり、「地域・社会の問題や出来事の関心」や「地域社会などでのボランティア活動への参加」も県・全国平均を下回っている。

## これまでの取組から

- 「適切な人権意識の育成」や「自分を大切にし、他の人を大切にする心」を育む学習実践を進めてきたことが、落ち着いた学習環境をつくり、生徒の豊かな心を育みつつあります。

## 今後の具体的な取組について

- ◇学校教育目標「地域とともに生き、たくましく、しなやかに未来を拓く生徒の育成」を目指し、地域や家庭との連携をさらに深めていきます。
- ◇校内研究の柱として取り組んできた「自分を大切にし、他の人を大切にする心の育成」を目指した教育活動を継続し、さらに充実した活動にしていきます。
- ◇情報リテラシー教育をさらに進め、情報に流されず適切にそれを活用する能力を伸ばしていきます。また、保護者会や学校便り等で、家庭への協力を繰り返し呼びかけていきます。

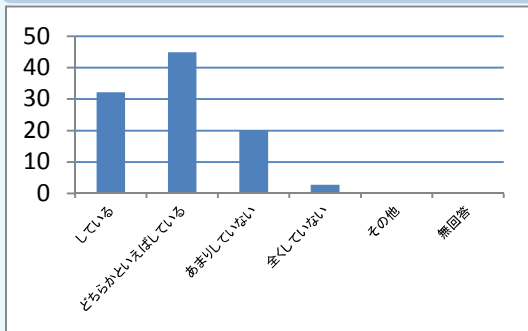
# ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「家庭で学力を育てる4項目」をまとめました。ご家庭の状況にあわせて、できることからぜひ始めてみましょう。

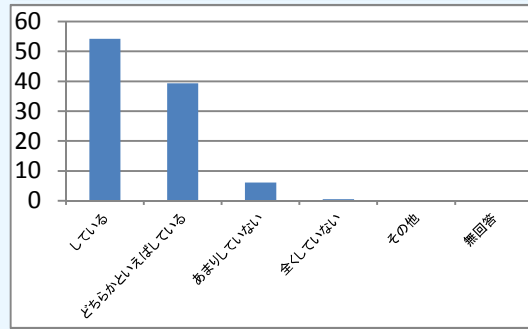
## 1 規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

「早寝・早起き・朝ご飯！」という合い言葉を聞いたことがありますか？平成22年度から「元々なえびなっ子プラン」「えびなっ子しあわせプラン」として、平成29年度まで市をあげて実現に向けて取り組んでいる内容です。今後も、ご家庭での協力をお願いします。

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



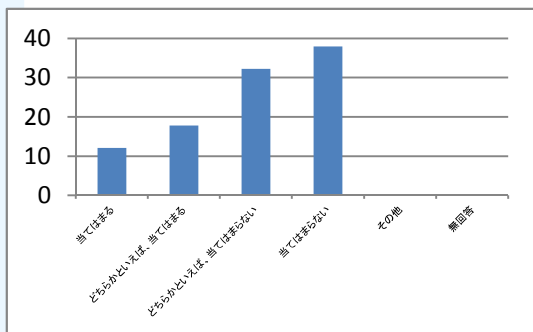
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



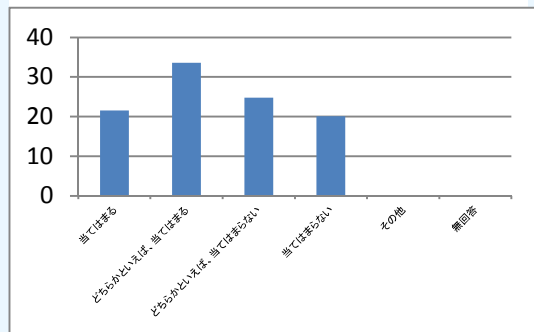
## 2 地域の活動には、家族で積極的に参加しましょう。

経済・社会環境や人々の意識の変化に伴い、地域のつながりが希薄化したと言われています。近年、地域におけるボランティアや市民活動が、新たなつながりとして増加傾向にあります。さらに、少子高齢化、核家族化、地域の教育力の低下への対応として、地域が果たす役割への期待が大きくなっており、地域のつながりの重要性がますます高まっています。

今住んでいる地域の行事に参加していますか



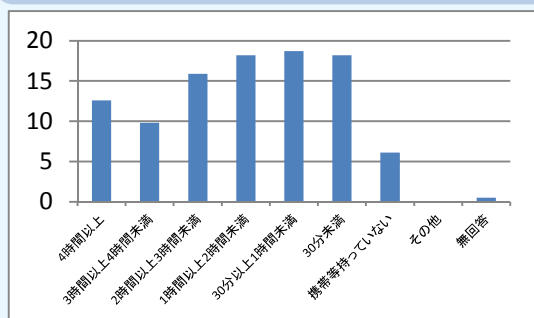
地域や社会で起こっている問題や出来事に  
関心がありますか



## 4 使用時間を決めてしっかり守りましょう。

1日あたりの使用時間を決めて使わないと、なかなかやめられないものです。また、SNS(ソーシャルネットワークサービス)でのトラブルにも気をつけましょう。

普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか



棒グラフは、各設問の回答者数を表しています。  
少しずつ、できることから始めてみましょう。



